

礎楚





礎 いしずえ

第56号

長野市立長野中学校・長野高等学校

生徒会

長野市立長野中学校・長野高等学校校歌（翼あるもの）

松井 五郎 作詞
森山 良子 作曲
古川 初穂 編曲

Vocal

翼あるもの (Key=F)

作詞 松井五郎/作曲 森山良子/編曲 古川初穂

♪ **Intro** ♪

みみ
みす

A

をすませば- かぜのよびごえ- だれもが- ゆめ-を- いだ
のながれに- はながこたえる- あしたへ- つな-ぐ- きず

いて かける- じぶんに- できる- ことがあるなら- そ
なを かける- だれかの- ために- ほじめたことは- そ

れ-を- あいだと- なつていい- ひとりひとりに-
れ-も- あいだと- しんじていい- ひとりひとりに-
ひとりひとりに-
ひとりひとりに-
ひとりひとりに-

ひろがるそらは- みちびくだう- きみはつぼさあるも
いつでもそらは- めていてくれる- きみはつぼさあるも
ひろがるそらは- みちびくだう- きみはつぼさあるも

の の D.S. al fine

の きみはつぼさあるもの

長野市立長野中学校・長野高等学校校歌
「翼あるもの」

作詞 松井五郎
作曲 森山良子
編曲 古川初穂

一 耳をすませば 風の呼び声

誰もが夢を 抱いて翔る（いだいてかける）
自分にできる ことがあるなら
それを愛だと 名付けていい

ひとりひとりに ひとつひとつの
心があるように

ひろがる空は 導くだろう
君は翼あるもの

二 水の流れに 花が応える（こたえる）

明日へつなぐ 絆を架ける
誰かのために はじめたことは
それも愛だと 信じていい

ひとりひとりに ひとつひとつの
光があるように

いつでも空は 見ていてくれる
君は翼あるもの

ひとりひとりに ひとつひとつの
ひとりひとりに

生徒会長になって

高校新生徒会長 山岸 蒼波

新生徒会長を務めさせていただく山岸蒼波です。生徒会長になった当初、私は生徒会役員の経験が初めてだったので、会議の準備や行事の運営に戸惑うことがよくありました。それでも、経験豊富な生徒会メンバーや先生方、生徒の皆さんの支えを受けて、少しずつ生徒会長としての自覚が芽生えてきました。生徒会の仕事は慣れないことばかりで苦戦することも多いですが、同時に仕事に責任や、やりがいを感じています。生徒会長として、学校がさらに楽しい場所になるように、学校のために何ができるのかを常に考えながら活動していきたいと思っています。

新型コロナウイルスがら類感染症へ移行したことで学校生活にも変化がありました。以前までは制限が多く、思うように活動できない日々が続いていましたが、その状況が大きく改善され、様々な活動や行事を従来通り、また新しい形で実施できるようになりました。こうした変化を追い風に、私は先輩方が築き上げてきた伝統を大切にしながら、これまで規制があった部分にも柔軟に対応し、より楽しい学校を作り上げていきたいです。例えば、璃翔祭のクラス企画の制限を緩めて表現の幅を広げたり、普段の学校生活が少しでも快適になるように、今までにない取り組みを沢山行っていきたいと考えています。そのためには、生徒会役員の努力だけでなく、生徒の皆さんの意見や協力が不可欠です。皆さんの意見を生徒会に反映させ、実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

私は、まだ未熟なところもありますが、皆さんと協力しながら学校がさらに楽しい場所になるよう努めていきます。新型コロナウイルスの影響が収まり、学校全体が以前のような活気を取り戻しつつある中で生徒会長として皆さんの思い出に残るような学校生活を創り上げるために全力を尽くします。一年間よろしくお願ひします。

新生徒会長になって

中学新生徒会長 石坂 權

どうも！令和7年度から、中学校の生徒会長を務めさせていただきます。石坂 權です。皆さんと一緒に、より良い学校生活を作り上げていくことを楽しみにしています！

選挙のときに僕が掲げた公約は、「みんなで作る、笑顔あふれる楽しい学校を、Dreams come true」でした。学校では学ぶことはもちろん大切だと思います。でも、毎日楽しく、充実したものにすることも大切だと僕は思います。それぞれが自分らしく輝き、笑顔で過ごせる環境、そして雰囲気を作りたいと考えています。そのために、まずは皆さんが参加できるイベントや活動を積極的に行って、意見を出し合いながら、一人ひとりの声が反映されるような取り組みを進めていきます！

例えば、学校行事をもっと盛り上げたり、楽しさを感じられるイベントを増やしていきたいと考えています。そして、学校内で気軽に意見を交換できる場を作り、皆さんの「やりたいこと」や「改善したいこと」を直接聞いていきたいと思っています。これにより、より多くの人が自分の意見を反映させ、学校全体が一体感を持つことができると思います。

さらに、「Dreams come true」という言葉に込めた思いは、皆さん一人ひとりが抱く夢や目標を実現できる学校にしたいというものです。僕たち生徒会は、そのためのサポート役となり、皆さんが自分の夢に向かって一歩踏み出せるような環境を作りたいと考えています。挑戦することができ、失敗してもまた立ち上げられる場所でありたいと願っています。

もちろん、僕自身もまだまだ学びの途中ですが、精一杯努力し、成長していきます。皆さんと一緒に過ごす時間が、楽しく、思い出に残るものになるよう全力を尽くしますので、どうか温かいご支援とご協力をお願いします。人権講演会や、交通安全集会などのきっちりとした場では、しっかりと、璃翔祭などの思いっきり楽しむ場では、思いっきり、そして全力で楽しむことにしましょう！！！！

これから一年間、皆さんと共に「みんなで作る、笑顔あふれる楽しい学校」を実現していきます！！

様々な価値観の中で生きる

校長 新津 英人

日本語で「卒業」といえば学業の「終了」を指しますが、アメリカの大学では卒業式を commencement つまり「始まり」と呼びます。これまで学んできたことを糧に、自分の人生をスタートさせるという意味ですが、高校までと社会に出てからは大きな違いがあります。中学や高校には、先生がいて教科書があり参考書があり正解がありますが、社会で仕事をする上では、答えは一つとは限りません。模範解答がないので、互いに納得できる解を導き出さなければなりません。そこには専門的知識やスキルが必要であり、さらに自ら問いをつくり自ら問いを解く力、主体性や創造性が求められています。

ここで二つの考えさせられる話をします。一つは、外国の話です。数百人の乗客を乗せた旅客機が操縦不能になり、このままでは六万人の観衆がいるスタジアムに墜落する非常事態が発生しました。緊急出動した軍の戦闘機は、苦渋の選択の末に旅客機を打ち落とすという判断をします。しかしその後、その判断を巡り裁判になり、検察や弁護人、証人がいろいろな考えを述べます。いずれ旅客機の乗客は犠牲になっていた。六万人を守るにはこの判断しかなかった。「六万人のためなら数百人は犠牲になってもいいのか」「たとえ一万人と一人でも命の重さを天秤にかけることはできない」……こんなやりとりが法廷で行われます。非難も擁護の言葉もすべて正解のようには思えません。どうでしょうか？皆さんが陪審員ならば、この軍人は有罪だと思いますか、それとも無罪だと思いますか。

もう一つは、昨年の秋から冬にかけて話題となった、住宅地での熊の出没です。秋田県ではスーパーにクマが一昼夜籠城したこともニュースになりました。熊により怪我をされた方も多くいらつしたようです。その度に、行政や猟友会の皆さんが熊を捕獲するわけですが、その捕獲に対して多くのメールや電話が役場などに寄せられるそうです。多くが「熊の命と人間の命の重さは同じだ」「熊との共存を目指せ」「人間の都合で熊の命を奪うな」といったもので、仕事に支障がでる場合も多いそうです。一方で、熊が出没する地域の人にとってみれば、いつ熊に襲われるかもわからず、家の外に出ることも憚られる状態では、安心して生活を送ることができないのも事実です。この話の背景にも多様な考え方や価値観があると思います。

この二つの話のように、皆さんが進もうとしている社会では、考え方が決まっている物事や結論が明らか場合は少ないものです。様々な考えの中から判断し、どう行動するかが決まります。それまでに蓄えた知識や経験を組み換え、新しいものを創造し、最適な判断につなげることが重要です。目の前にある事柄の本質を見極める力を養い、真理を追究できるようにしてくれることを期待しています。